



移動スーパー 笑顔運ぶ

「買い物難民」や見守りに一助

軽トラックなどに食料品や日用品を積んで各家庭に出向く移動スーパーの取り組みが、県内各地で広がっている。近くに店がなかったり乗用車の運転が難しかったり、日常の買い物に困っている高齢者ら「買い物難民」の助けとなるだけでなく、体調変化に気づく見守りにもつながっている。

（西海直也）

県内各地取り組み広がる

「小さなスーパーがやってきた印象で、色々そろっていいのはありがたい」。8日、夫粟市山崎町の五十波地区を訪れ、民家の前に止まった移動販売車「とくし丸」で、じゃがいもや総菜などを購入した主婦(63)は笑顔を見せた。これまででは便数の限られた路線バスや親族の車で、週1回、約2

き離れた市内のスーパーへ行き、まとめて買い物していたが、余分に商品を購入してしまふことが多かったという。とくし丸は生鮮食品や日用品約400種約1200品を扱い、市内を3ルートに分けて週2回ずつ約120世帯を回る。この主婦は「週2回来てくれるなら、献立も考えや

すいいし、必要な分だけ買える。また利用したい」と喜んだ。とくし丸は、スーパー運営会社「とくし丸」（徳島市）が2012年に始めた。提携する各地のスーパーと契約した個人事業主「販売パートナー」が地域を回る仕組み。今回はスーパー「カワベ」（相生市）の協力で実現した。

とくし丸はたつの、相生、赤穂市などでも同様の事業に取り組んでおり、宍粟市の販売パートナー、置塩賢二さん(48)（姫路市）は、「買い物に困った人たちの一助になりたい」と意気込む。

県経営商業課によると、移動スーパーは都市部の郊外や農村地域で広がっているという。播磨地域では「ふくふくまろ」（福崎町）や「ふれあいのマルシェ」（加古川市）のほか、宍粟市では今月からマックスバリュ西日本（広島市）がハリマ農業協同組合から事業を受け継ぎ実施している。

移動スーパーが、人命救助につながった事例も。カワベによると今年8月、たつの市内を回っていたとくし丸の販売パートナーが、普段利用する女性高齢者が家から出たところ、倒れているのを見、熱中症だったとみられ、関係先に連絡して助けたという。



買い物客と笑顔で会話する置塩さん（右、宍粟市で）